

大学で学べる音楽講義に関する報告 『資料：金城学院大学 授業開講例』

| 開講授業名 | 担当者 | 開設学部学科 | 科目区分 | 概要 | 到達目標 | 履修条件 | 評価方法 |
|------------|---------|------------|----------------------------|---|---|--|---|
| 音楽とキリスト教 | 楚和松人、森泉 | 共通部門 | 共通教育科目 ①キリスト教(アイデンティティ) | (1) 2人の教員によるコーディネーション[理論/解説と実践/歌唱]方式の授業で、賛美歌を多面的に学ぶ。(2) 賛美歌を通じて、キリスト教精神を理解し、キリスト教に親しみを持つ。また、キリスト教を知ることで西洋音楽全体をより深く理解する。(3) スタンダードナンバーの中から名曲を厳選し、メロディー、ハーモニー、リズム、オリジナルの歌詞について理解した上で、ピアノ演奏に合わせて、思いっきり声に出して歌う。(4) 女性の賛美歌作者にも注目し、金城学院大学ならではのほかに例を見ないオリジナルな授業の展開を堪能する。(5) 毎回、映像とCDの鑑賞を通して賛美歌の精神を味わう。(6) 英語の歌詞も理解します。 | "(1) スタンダードナンバーの賛美歌について知り、歌えることができる。(2) クリスマスやイースターについて知り、多くを語ることができる。(3) 賛美歌の背景にある精神や歴史と文化について語ることができる。" | | ■課題(1) (10%) ■課題(2) (20%) ■課題(3) (20%) ■課題(4) (20%) ■課題(5) (30%) □課題(2) ~ (5) は学期中にホッチキスで一つに綴じて提出する。早め早めに提出する。 |
| 音楽科指導法A | 川村有美 | 共通部門 | 教職に関する科目(中高免許) 教職科目 | "前期の授業では、現在の中等教育段階における音楽科教育の特徴を捉えたとともに、音楽科教育の歴史の変遷についても学び、音楽科教育についての理解を深める。また、中学校及び高等学校音楽科の学習指導要領、教科書、学習支援教材、実際の授業の展開を理解する。 後期の授業では、音楽科学習指導に必要な年間指導計画、題材指導計画、学習指導案、ワークシート、板書の仕方を習得し、模擬授業を行う。" | 中学校、高等学校における音楽科教育の現状をふまえ、音楽教員としての基礎的資質を養う。 | 中学校、高等学校音楽教員を目指す学生 | レポートの課題等(教材研究等) (30%)、模擬授業(模擬授業に必要な学習指導案や教材プリント等を含む) (30%)、最終課題(40%)により総合的に評価を行う。 |
| 音楽科指導法C | 川村有美 | 共通部門 | 教職に関する科目(中高免許) 教職科目 | "音楽科教育法A"で学んだ理論を基盤にしなが、中学校音楽科の授業を構成し実践する力を演習形式で培う。 | 中学校音楽科の現状をふまえ、授業を構成し実践する力を身につける。 | 中学校、高等学校音楽教員を目指す学生 | 授業中の課題(30%)、模擬授業(50%)、最終課題(20%)により総合的に評価を行う。 |
| 音楽鑑賞A | 山本雅士 | 文学部 音楽芸術学科 | 専門教育科目 専門教育科目 | バロック音楽初期から20世紀までの西洋音楽の基本的な流れを理解した後、各時代の中で最も重要な作曲家に焦点を当てて次世代に影響を与えた作品を検証する。 | クラシック音楽の魅力を再認識し、その素晴らしさをより多くの人に伝えられるようにする。 | | レポート70% 平常点30% |
| 音楽鑑賞B | 小松長生 | 文学部 音楽芸術学科 | 専門教育科目 専門教育科目 | 弦楽曲、オペラ、宗教曲、バレエの重要な曲を分析し鑑賞する。 上級。 | 重要な管弦楽曲やオペラをしり、それらの特徴も把握できる能力を身につける。 上級。 | 楽譜が読め ピアノが弾けることが望ましい。レポート課題未提出の場合欠席とみなす。 | "レポート課題 80% 学期内期末テスト 20%" |
| 音楽鑑賞C | 森本典子 | 文学部 音楽芸術学科 | 専門教育科目 専門教育科目 | ミュージカル、オペレッタ、オペラ、バレエの違いを理解し、ミュージカル(音楽舞踏劇)という大衆舞台芸術の誕生から発展までを学び、DVD等で鑑賞する。ミュージカルを構成する歌唱、演劇、ダンスの役割を理解する。また学生自身が題材を選択し、自ら解説を発表する時間も持つ。 | クラシック音楽を勉強している学生が、自分の専攻分野のみならず、さまざまな舞台芸術へ興味を広げ、知識を積んでほしい。 | 他学科学生の履修不可 | 中間試験筆記試験30% レポート50% 平常点20% |
| 音楽鑑賞D | 森正人 | 文学部 音楽芸術学科 | 専門教育科目 専門教育科目 | 西洋におけるポピュラー音楽の文化史を、音楽や映画を鑑賞しながら解説する。 | 西洋におけるポピュラー音楽の文化史を理解する。また受講生各人の考えを他の受講生と共有するためのコミュニケーション能力を高める。 | とくになし | 各回の授業前に提出された感想文(5点x13)、授業終了後のレポート(35点) |
| 音楽鑑賞E | 小沢優子 | 文学部 音楽芸術学科 | 専門教育科目 専門教育科目 | メディアを通してさまざまな音楽を自由に享受できる現代社会だが、日本の伝統音楽に興味を持ち日頃から親しんでいる人はそれほど多くはないだろう。本講義では、日本の代表的な伝統音楽を取り上げ実際に鑑賞し、日本の音楽が持つ豊かな個性や表現力を学んでいく。 | わが国において古くから伝えられてきた音楽の響きや様式を感じることによって、自らの音楽体験や音楽観をより広く深いものとする。 | とくになし | 授業期間内に提出する2つのレポート(1回目のレポート40%、2回目のレポート40%)と授業態度(20%)によって評価する。 |
| 西洋音楽史入門 | 森本頼子 | 文学部 音楽芸術学科 | 専門教育科目 専門教育科目 | 西洋音楽史の基礎を学ぶ。音源や映像資料などを豊富に用いて、それぞれの時代の音楽について興味を深めるとともに、基礎的な音楽史の概念や、代表的な作曲家、主要な音楽様式を理解する。中間試験と期末試験によって知識の定着を図り、より詳しく西洋音楽史を学ぶための基礎固めをする。 | 西洋音楽史の大きな流れを把握し、中世・ルネサンス時代から近現代に至るまでの音楽について、基礎的な知識を習得することを目標とする。 | 事前実施する Placement examinationの結果により、必要な学生が受講する。 | 中間試験35%、期末試験35%、課題30% |
| 西洋音楽史A | 森本頼子 | 文学部 音楽芸術学科 | 専門教育科目 専門教育科目 | 古代から前古典派時代までの西洋音楽史を学ぶ。西洋音楽史の時代区分に沿って授業を進め、各回の授業では、時代ごとの歴史背景や音楽文化について学んだ上で、楽譜を見ながら音楽を聴き、様式的特徴を「目と耳から」具体的に把握する。中間試験と期末試験では、記述問題とリスニング問題を出題し、西洋音楽史の総合的な知識の定着を図る。 | 西洋音楽史の知識を身につけるとともに、それぞれの時代の音楽を聴き、様式的特徴を識別できるようにすることを目標とする。 | 必要な学生は、西洋音楽史入門を履修済みなこと。 | 中間試験35%、期末試験35%、課題31% |
| 西洋音楽史B | 森本頼子 | 文学部 音楽芸術学科 | 専門教育科目 専門教育科目 | | | | |
| ピアノ音楽史 | 中根浩晶 | 文学部 音楽芸術学科 | | | | | |
| 音楽芸術学演習(1) | 飯田真樹 | 文学部 音楽芸術学科 | 専門教育科目 専門教育科目 | "各自で研究課題を設定し、授業内で定期的に中間発表を行う。 ・中間発表前に、教員からのアドバイスや学生相互の意見交換を行い、最終の研究のまとめへ進む。 ・研究課題は基本的に自由であるが、教員の専門領域の範疇であることが望ましい。 ・研究のカテゴリー一列として、おおよそ以下のものが考えられる。 A.楽曲分析/作曲家研究/作編曲 B.演奏研究(実技or音楽学的研究) C.教育・指導法研究/その他" | "1. 研究を主体的に進めていくことのできる「アクティブラーニング」の姿勢を身につける 2.広い視野とセルフプロデュース能力の獲得" | 主体的に音楽研究を進め、人前で発表をすることを厭わないこと | "研究過程での主体性30%(他者の研究への意見提示、問題提起含む) 研究成果から推察される研究過程での学習量30% 研究の到達点40%" |

| | | | | | | | |
|------------|------|------------|------------------|--|--|-------------------------------------|--|
| 音楽芸術学演習(1) | 小松長生 | 文学部 音楽芸術学科 | 専門教育科目 専門教育科目 | 交響曲、協奏曲のスコアを読みながら鑑賞する。各自に割り当てられた楽曲の分析・解説を発表し、演奏する。マスタークラスも行う。 初級 | 楽曲を分析し、解りやすく解説できる能力を身につける。 演奏能力を高める。 | manaba を使いこなせる事。レポート課題未提出の場合欠席とみなす。 | *レポート課題 80% 期末テスト 20%* |
| 音楽芸術学演習(2) | 飯田真樹 | 文学部 音楽芸術学科 | 専門教育科目 専門教育科目 | *各自で研究課題を設定し、授業内で定期的に中間発表を行う。 ・音楽芸術学演習(1)で行った研究のテーマの発展でも良いし、別のテーマでも良い。 ・中間発表毎に、教員からのアドバイスや学生相互の意見交換を行い、最終の研究のまとめへと進む。 ・研究課題は基本的に自由であるが、教員の専門領域の範疇であることが望ましい。 ・研究のカテゴリー例として、おおよそ以下のものが考えられる。 A.楽曲分析/作曲家研究/作編曲 B.演奏研究(実技or音楽学的研究) C.教育・指導法研究/その他* | *1.研究を主体的に進めていくことのできる「アクティブラーニング」の姿勢を身につける 2.広い視野とセルフプロデュース能力の獲得 3.音楽専攻学生の研究として客観的に認められる研究レベル* | 主体的に音楽研究を進められる者 | *研究過程での主体性40% (他者の研究への意見提示、問題提起を含む) 研究成果から推察される研究過程での学習量20% 研究の到達点40%* |
| 音楽芸術学演習(2) | 小松長生 | 文学部 音楽芸術学科 | 専門教育科目 専門教育科目 | 交響曲、協奏曲のスコアを読みながら鑑賞する。各自に割り当てられた楽曲の分析・解説を発表し、演奏する。マスタークラスも行う。 中級。 | 楽曲を分析し、解りやすく解説できる能力を身につける。 演奏能力を高める。 | manaba を使いこなせる事。レポート課題未提出の場合欠席とみなす。 | *レポート課題 20% 期末テスト 80%* |
| 音楽芸術学演習(3) | 磯貝俊幸 | 文学部 音楽芸術学科 | 専門教育科目 専門教育科目 | 各自の専攻楽器についての歴史や、それに関わるオーケストラや吹奏楽、室内楽の歴史と名演奏、名奏者に迫る。 | 歴史や名演奏に触れることにより、各自の専攻楽器に対し一層深く向き合うことができる。 | | 試験 70%、平常点 30% |
| 音楽芸術学演習(3) | 小松長生 | 文学部 音楽芸術学科 | 専門教育科目 専門教育科目 | 管弦楽曲を中心に、構造分析を行う。作曲者が明確に意識して構築した楽曲構成を把握する。各曲を取り巻く時代背景の理解も重要となる。 応々にして長大な楽曲を漠然と聴くのではなく、曲の設計図を明確に見据えながら作曲家・作品が伝えたいことに注意が向けられるようにする。また指揮者の立場からリハーサル技術、演奏論なども授業で取り上げる。受講者が授業時に演奏しそれを教官が指導する所謂「マスタークラス」も定期的に行う。 | 管弦楽曲のスコアを読解出来るようにし、曲の構造図を常に意識して曲の意図を汲み取る能力を習得する | 楽譜が読めること。レポート課題未提出の場合欠席とみなす。 | *レポート課題 80% 期末レポート 20%* |
| 音楽芸術学演習(4) | 能勢健司 | 文学部 音楽芸術学科 | 専門教育科目 専門教育科目 | *4年実技試験及び卒業演奏会で演奏予定の楽曲を楽理的な考察と実技の両面からアプローチし、それらの楽曲を軸に声楽曲や声楽に関わる事柄(語学、発音、声楽界の国際事情等)について包括的に研究する。* | *4年実技試験及び卒業演奏会で演奏予定の楽曲の曲目解説(プログラムノート)を作成し発表する。そしてマスタークラス方式で演奏技術の完成度を高めてゆく。* | | *曲目プログラムノート60% 研究・授業への主体性、取り組み40%* |
| 音楽芸術学演習(4) | 小松長生 | 文学部 音楽芸術学科 | 専門教育科目 専門教育科目 | 管弦楽曲を中心に、構造分析を行う。作曲者が明確に意識して構築した楽曲構成を把握する。各曲を取り巻く時代背景の理解も重要となる。 応々にして長大な楽曲を漠然と聴くのではなく、曲の設計図を明確に見据えながら作曲家・作品が伝えたいことに注意が向けられるようにする。また指揮者の立場からリハーサル技術、演奏論なども授業で取り上げる。受講者が授業時に演奏しそれを教官が指導する所謂「マスタークラス」も定期的に行う。 | 管弦楽曲のスコアを読解出来るようにし、曲の構造図を常に意識して曲の意図を汲み取る能力を習得する。 | 楽譜が読めること。レポート課題未提出の場合欠席とみなす。 | *楽曲分析の発表 40% マスタークラス 30% 期末レポート 30%* |
| 音楽理論 | 成本理香 | 文学部 音楽芸術学科 | 専門教育科目 専門教育科目 | *下記の3項目を主要な項目として取り扱う。 1.音程と和音(コードネーム含む) 2.調の関係と和音(ディグリー含む) 3.移調及び移調楽器の理解* | 専門職志望者に必要なレベル。具体的な目安として、教員採用試験の音楽理論問題が解けるレベル、ヤマハ指導グレード5級合格レベルの音楽理論の理解。 | 音楽家、音楽指導者を目指す者 | 単元ごとの授業内試験各30%(合計3回実施) / 課題の提出(10%) |
| 音楽理論 | 中根浩晶 | 文学部 音楽芸術学科 | 専門教育科目 専門教育科目 | *下記の3項目を主要な項目として取り扱う。 1.音程と和音(コードネーム含む) 2.調の関係と和音(ディグリー含む) 3.移調及び移調楽器の理解* | 専門職志望者に必要なレベル。具体的な目安として、教員採用試験の音楽理論問題が解けるレベル、ヤマハ指導グレード6級合格レベルの音楽理論の理解。 | 音楽家、音楽指導者を目指す者 | 単元ごとの授業内試験各30%(合計3回実施) / 課題の提出(11%) |
| 音楽と文学A | 小松長生 | 文学部 音楽芸術学科 | 専門教育科目 専門教育科目 | スコアリーディング、音楽鑑賞、及び文学作品の抄読。 音楽と文学の比較考察。 | 文学作品が音楽に与えた影響を理解する。 | manaba を使いこなせる事。レポート課題未提出の場合欠席とみなす。 | *レポート課題 70% 期末テスト 30%* |
| 音楽と文学B | 小松長生 | 文学部 音楽芸術学科 | 専門教育科目 専門教育科目 | スコアリーディング、音楽鑑賞、及び文学作品の抄読。 音楽と文学の比較考察。 | 文学作品が音楽に与えた影響を理解する。 | manaba を使いこなせる事。レポート課題未提出の場合欠席とみなす。 | *レポート課題 70% 期末テスト 31%* |
| 日本音楽論 | 小沢優子 | 文学部 音楽芸術学科 | 専門教育科目 専門教育科目 | | | | |
| 民族音楽論 | 未定 | 文学部 音楽芸術学科 | 専門教育科目 専門教育科目 | | | | |